

令和4年度 第6回 清和小学校 学校運営協議会 実施報告書

出席者 委員8名（1名欠席）、事務局（教頭）

1 日 時 令和5年2月10日（金）15：30～16：50

2 場 所 鈴鹿市立清和小学校 図書室

3 挨 拶 学校長：地域の方の地域力はすばらしい。よい地域がすばらしい学校を作ると言われている。支えられていることに感謝している。

委員長：学校関係者評価がより良いものになるようにしてほしい。

4 協議事項

(1) 子どもの様子について

学校内の様子

- ・縄跳び大会が楽しみという声が聞こえてくると、できるだけ実施したとの意向から1週間延ばすことにした。全員が縄跳びに向かって取り組んでいる姿が嬉しい。

地域内の様子

- ・大雪が降ったが、久しぶりにあると歓声が聞こえて良い感じである。
- ・大雪の際に休みになる地域もあったが鈴鹿市はどうだったのか？
→鈴鹿市でも地域によって対応は違うが休校にはならなかった。本校は2時間遅れて対応した。
- ・住宅地に入っているが子どもが急に飛び出してくるので危険という地域の声を聞いた。ご家庭でも気を付けるように指導してほしい。
- ・自治会でもパンダマークを設置しているが予算の関係でなくなると市からもらえなくなるので早めに要望してもらっている。
- ・最近、誘拐予告メールが多いが、その際には学校はどう対応しているか？
→教員が朝と帰りのパトロールを実施。学校への残り組（児童受け入れ等）を確保した上で、最大限の教員を動員している。
地域の方にも立っていただけるとありがたい。
- ・自治会でも緊急の場合には地域もパトロールするようにしている。
パトロールする際には目印となるように余っているジャンパーとかがあればいただけないか検討してほしい。

(2) 学校関係者評価について

《学校より》

学力向上について

- ・分からない子には個別にみる時間の確保。学習指導員やアシスタント等の力も活用して、分からないという児童を減らしていきたい。
- ・学校でも声が小さいとは感じている。コロナ渦でマスクをさせてきたことも影響しているとはいえ、自分の思いを伝えるスキルは身につけさせていきたい。

ICT 活用

- ・3学期から4年生以上は毎日クロームブックの持ち帰りをさせている。どうやって家庭学習で使わせるとよいか、その使い方について（情報モラル、家庭での使い方等）を家庭と連携しながら使用していきたい。手で書くことも有効ということもあるので上手に取り組んでいきたい。

生活指導

- ・人権教育の面でもいじめを含めた友達とのかかわりという面でも、児童が主体となっ
て行う取り組みが大切であるので、児童会ともタイアップして取り組んでいきたい。

長欠児童

- ・学校に行きづらい子が多い点が学校の課題である。いろいろ策は練っているが登校には結びついていないのが現状である。関係機関も入り取り組んできたが、学校でももっと組織を充実して研修会等も実施していきたい。

地域連携

- ・PTA の力も借りてボランティア活動に取り組んでいきたい。
- ・メディアに触れる時間と体力との関係はあるが、全国体力測定で5年生男子児童は鈴鹿市で一番良かった。体を動かすことが好きな子や運動する時間を確保することを今後も大切にしていきたい。

《委員より》

- ・「小学校のうちで九九をマスターできないものか。」という声を中学校の先生たちから聞く機会がある。何とか定着を図れないものか？

→人員を確保しながら家庭とも連携しながら取り組んでいきたい。

基礎基本を大切にしながら今求められる力をつけていきたい。

教頭も含めて休み時間に定着を図れるように努力しているが、長期の海外帰国や宿題の定着ができていない児童は、繰り上がりの足し算や繰り下がりの引き算、九九等の基礎基本の定着ができていない。休み時間や人員を有効に使って定着を図ってきたい。

- ・低学力（九九ができない等）が不登校につながっているのではないかと。

→必ずしもそうとはいえない。長期で休んでいる児童は家でテレビを見たりゲームやタブレットを使って過ごしたりする傾向にあり、学校が原因のものはほとんど考えられない。学力定着により学校生活は楽しくなるので、学力定着には努めていく。

関係機関とも連携して社会に少しでも触れられたらと考えている。

- ・不登校の支援機関はあるのか

→けやきやさつき等の関係機関はあるが、不登校の児童数に対して通っている児童は少ないのが現状である。特に鈴鹿市は不登校児童生徒数の割合が高く課題となっている。中学校ではさらに割合が高い。教育委員会でも不登校担当を中心にいろいろ策を練って学校とも連携して進めている。（アドバイザーより）

- ・ネットモラル教室を参観したことがあるが、薬物乱用防止教室は児童のニーズにあってないと感じた。児童が起こりうる危険性のあるタブレットやスマートフォンの内容や高校生がユーチューブ等で誤った投稿している内容等につなげるメディアリテラシーを教えてほしい。

→自分専用のスマートフォンを持っている児童の低年齢化やゲーム機を通じた不特定多

数の人との関係も避けられないことから、情報担当を中心に低学年時からネットモラル教室等情報モラルを系統的に実施していきたい。また授業参観を通して保護者にも働きかけていきたい。

(3) 学校運営協議会会計報告について（別紙）

- ・今年度は保険のみに使わせていただいた。

(4) 来年度学校運営協議会委員について

- ・今の委員さんの方で交代される方は、次の方に引き継いでほしい。

5 鈴鹿市教育委員会アドバイザーより

- ・令和5年度の基本方針に反映していくものなので基本方針につながるようにしてほしい。PDCAサイクルを大切にしてほしい。
- ・連携を継続するのではなく、少しでも日常行われてきた地域連携の行事等を元に戻すような形で実施してほしい。
- ・地域学習をどの学年で実施していくかも大切であるが、ゲストティーチャーを含めて学校運営協議会で議論して実施してほしい。
- ・スマホが低年齢化している。どんなことを使っているかを知ることが大切である。スマホの使い方については親子との約束、ルールをしっかりと決めてほしいということを機会があるごとに周知してほしい。法律やメディアリテラシーについて小さい時から具体的に教えてほしい。